



すべてのジャンルに創造の場を開いた、アート・プラットフォーム

OPEN SITE は、2016 年から開始したトーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)の企画公募プログラムです。あらゆる表現活動が集まるプラットフォームの構築を目指し、展覧会やパフォーマンス、ワークショップなど、多岐にわたる企画を開催しています。

7 回目となる 2022 年度は、135 企画の応募の中から展示部門 5 企画、パフォーマンス部門 2 企画、dot 部門 2 企画を選出しました。さらに TOKAS 推奨プログラムと普及プログラムを加えた合計 11 企画を実施します。これまでにない表現を探求し、創造の場を作り上げていく意欲に満ちた企画に、ぜひご期待ください。

開催概要 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、変更となる場合があります。

プログラム名： OPEN SITE 7

実施期間： Part 1 2022 年 10 月 22 日（土）-2022 年 11 月 27 日（日）

Part2 2022年12月10日(土) - 2023年1月22日(日)

会 場： トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷2-4-16）

休 館 日： 月曜日(ただし1月9日は開館)、12月29日(木)－1月3日(火)、1月10日(火)

主 催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

ウェブサイト : www.tokyoartsandspace.jp/

＜ お問い合わせ ＞

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館) 広報担当:市川、武智

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 関連イベント

■ Part 1 オープニング・トーク

日時：10月22日（土）16:00 – 17:30

出演：菅 実花、米澤 柊、Excitation of Narratives（伊阪 柊＋竹内 均＋玄 宇民）
小林晴夫（blanClass ディレクター）、平倉 圭（横浜国立大学准教授 | 芸術学）

■ Part 2 オープニング・トーク

日時：12月10日（土）16:00 – 17:30

出演：スピネット・アグスティン、ラウス・ルイズ、小林 椋、高松 霞
畠中 実（NTT インターコミュニケーション・センター[ICC] 主任学芸員）
近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター）

■ 2022年9月15日（木）よりチケット予約受付開始！

パフォーマンス公演および一部のイベントは予約制です。

TOKAS ウェブサイトの各企画ページから予約フォーム／予約専用サイトにアクセスし、必要事項を入力の上お申し込みください。詳細は後日チラシおよびTOKAS ウェブサイトで発表します。

※各公演とも定員になり次第、または公演の2時間前をもって予約受付を終了します。

■ 実施企画／広報用画像 ※この他にも広報用画像をご用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

【Part 1】2022年10月22日（土） – 11月27日（日）11:00 – 19:00／無料

展 示

菅 実花 KAN Mika

「鏡の国」

近年、SNS で自分自身のイメージを表現することや、オンライン会議で自己の姿をモニター上で認識する機会が増えた。そもそも現在の自己意識は鏡の普及によって形成されたという。1835 年に鮮明で安価な鏡が発明されると、文学作品には最先端の光学装置が登場し「分身」がテーマとなった。本展ではそれらに現代のテクノロジーを組み合わせ、鑑賞者の「分身」を出現させ、現代のアバター化する自己認識を描き出すことを試みる。

関連イベント

11/12（土）14:00 – トークイベント 予約制

ゲスト：平野啓一郎（小説家）

プロフィール

1988 年生まれ。千葉県を拠点に活動。主に 19 世紀の文化をリファレンスに、人形・写真・光学装置を用いて「人間と非人間の境界」を問う。

助成 公益財団法人 野村財団 NOMURA 野村財団



1. 《Hyper Fake 0001》2020

展 示

米澤 柊 YONEZAWA Shu

「名無しの肢体」

展示空間内に、プロジェクターの光で透過されて向き合う2枚のフレームが設置されている。人がすっぽり入るくらいのサイズのフレームには、人の形を保っていないアニメーションキャラクターの身体が眠り続けている様子が映る。アニメーションの語源である anima、その生命力を形取るデジタル上の身体、フレームとフレームの間の「無い身体」を浮き彫りにする映像インスタレーション。

関連イベント11/13 (日) 時間未定 トークイベント 予約制

ゲスト：黒寄 想 (評論家)



2. 《名無しの肢体ビジュアル 1》2021

プロフィール

1999年生まれ。東京都を拠点に活動。アーティスト、アニメーター。現在のデジタルアニメーションにおけるキャラクターの身体性、またそのアニメーションが生きる空間の空気性に関心を持って制作している。

////////////////////

展 示**Excitation of Narratives (EoN)****「話法の生成—Essay Film の立地—」**

10月22日 (土) – 11月10日 (木)

11:00 – 19:00 / 無料

※会期が他の展示企画と異なります。

エッセイフィルムの研究プロジェクトとして発足した「Excitation of Narratives (EoN)」の研究成果と制作実践の発表。エッセイフィルムは文学におけるエッセイのあり方を援用した「異端の」話法であり、2000年代以降映画史における研究や現代美術分野での映像実践においても言及が盛んになっている。EoNではそうした隆盛の中で周縁化しがちな非西欧圏、特にアジア地域を含めた上で、新たな話法の可能性へと開いていく。



3. 「話法の生成—Essay Film の立地—」メインビジュアル

アーティスト 伊阪 柊+竹内 均+玄 宇民

関連イベント11/5 (土) 15:00 – アーティスト・トーク「話法の生成—実践を手引きにして」 予約制

参加作家3人によるそれぞれの制作を踏まえた上でのエッセイフィルムに関する研究発表。

プロフィール

2021年に作家の伊阪柊、竹内均、玄宇民によって発足されたエッセイフィルム研究のプロジェクト。定期的に研究論文等の読書会を開き、翻訳や鑑賞会を行いながら制作を実践する。

パフォーマンス**前田春日美＋豊島彩花**

MAEDA Kasumi + TOYOSHIMA Sayaka

「やわらかい杖を置く 平たい目で登る」

11月18日（金）19:00－

11月19日（土）13:00－ / 17:00－

11月20日（日）13:00－

¥1,500／予約制

4. 『やわらかい杖を置く』2022
Photo: コムラマイ

美術家の前田春日美とダンサーの豊島彩花が「身体を置く」「動作を物質として捉え直すこと」について対話を重ねながら制作するパフォーマンス作品。空間／互いの身体／オブジェクトに身体の一部を預ける動きで構成され、痒みや痛みといった自身の意思とは異なる感覚が肌理を這うように「不自由」を互いの身体に移動させることで、誰かの拡張された身体の可能性として、身体への認識の新しい扉を開く。

出演 前田春日美、豊島彩花

プロフィール

前田春日美：1991年生まれ。東京都を拠点に活動。身体の不全性や不安を起点とし、身体への確信の持てなさや不安を拭うように身体を確かめる振る舞いを記録したビデオワークを主に制作している。

豊島彩花：1993年生まれ。パフォーマー、ダンサー。東京都を拠点に活動。いけばなのプロセスと踊りの関係性を主なテーマにパフォーマンスを展開し、花や枝などの自然物を用いて身体の接続を試みる。現在は身体表現に力を入れ、音楽家や美術家との共作も行う。

////////////////////

dot**サトウアヤコ SATO Ayako****日常記憶地図「“家族”の風景を“共有”する」**

11月23日（水・祝）－11月27日（日）

11:00－19:00／無料

さまざまな関係の“家族”の、日常の中で語られにくい「場所の記憶」と風景を“共有”する場をつくり、他者や未来の“家族”との記憶の媒体となる「日常記憶地図」を制作する。また、複数の“家族”の「日常記憶地図」の展示やトークを通じて、役割や関係を迂回することの可能性について考える。

5. 日常記憶地図インタビュー 2020
提供：長野県立美術館

空間デザイン協力 後藤寿和・池田史子（gift_）

関連イベント

11/23（水・祝）、11/27（日）11:00－13:00 ワークショップ 予約制

11/26（土）14:00－16:00 トーク「“家族”の風景を“共有”する」 予約制

ゲスト：アサダワタル（アーティスト、文筆家、近畿大学文芸学部教員）

プロフィール

群馬県を拠点に活動。「カード・ダイアログ」、「日常記憶地図」、「マイクロ・ストーリーズ」など想起や対話の方法を開発しながら、言語化や媒介的なコミュニケーションと「ひとりで、共に」在る場について探求している。

【Part 2】2022 年 12 月 10 日（土）－2023 年 1 月 22 日（日） 11:00－19:00／無料

展 示

スピネット・アグスティン、ラウス・ルーズ

Agustín SPINETTO, Louise ROUSE

「Sounds from Liminal Towns」

日本に長期在住し、それぞれ芸術と音楽を研究しているスピネット・アグスティンとラウス・ルーズによる展覧会。海外から日本に移住してきた外国人女性たちと協働し、彼ら自身の未来について考察する。音、記憶、触覚のレンズをとおして、国境を超えたさまざまな移住体験に焦点を当て、インスタレーションとして展開する。

関連イベント

12/17（土） 15:00－18:00 ワークショップ「Memory Jukebox」 予約制

プロフィール

2019 年結成。東京都、ブエノスアイレス、ロンドンを拠点に活動。

スピネット・アグスティン：作曲家。オーディオサンプルや楽器、音楽プログラミングを使って制作する。

ラウス・ルーズ：ビジュアルアーティスト。国境を越えた移住のメタファーとして版画制作固有のレプリケーション（複製）を取り入れた作品を発表している。



6. 《300km》 2022

////////////////////

展 示

小林 暲 KOBAYASHI Muku

「亀はニエフスのイウユのように前足を石にのぼすと」

SF 作品に登場する見慣れない機械の動きの動作が、身近な動物の仕草に例えられるように、文学作品の表現において、あるものの動きが別の何かの動きに例えられて描写されることに着目。文章中で具体的なものに置き換えられた動きを、実物の観察などをとおして、単なる「動き」として抽出したキネティックな作品へ展開する。意味から引き剥された抽象的な動きをフィクションの中で捉えなおし、別の姿を思弁することを試みる。

関連イベント

1/7（土） 16:00－ トーク 予約制

ゲスト：樋口恭介(SF 作家)

プロフィール

1992 年生まれ。京都府を拠点に活動。ある事物や歴史的な出来事に対して、物理的な装置やオブジェを介入させることで生まれる飛躍、不和や違和感を観察しながら、別様な姿を思弁するための作品を制作する。



7. 《州ん》 2020
Photo : ToLoLo studio

協力 一般社団法人 HAPS

パフォーマンス

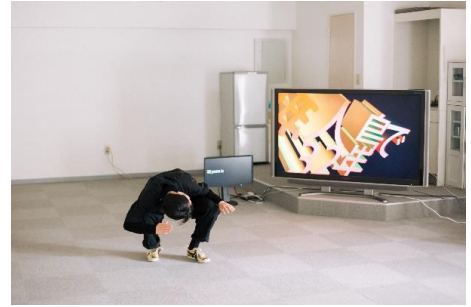
たくみちゃん TAKUMICHAN
「—(dash)#2 Rosetta Stone」

1月13日（金）19:00 -

1月14日（土）13:00 - / 17:00 -

1月15日（日）14:00 -

¥3,000 / 予約制



8. 『—(dash)』 2021
Photo: コムラマイ

パフォーマーが注視するモニターには、抽象形態の3Dモデリングが動いている。アンビエントな音楽とともに、3Dモデリングがゆっくりと変形し文字を形成していく過程を、パフォーマーが身体上に置きなおしていく。外国語や書など、判読できない文字は、パフォーマーの身体表現や発話によって翻訳されるが、意味の取りこぼしや過剰な理解も生じるかもしれない。コミュニケーションの可能性と不可能性を探求する作品。

出演 たくみちゃん、荒木知佳、佐々木すーじん

翻訳・文芸協力 清水恵み

プロフィール

1988年生まれ。東京都を拠点に活動。独自のインプロヴィゼーションをもとにパフォーミングアーツ、美術、演劇など領域横断的に活動する。近年は言葉の伝達がテーマのひとつとして、分断のない世界を願い作品に表現している。

////////////////////

dot

高松 霞 TAKAMATSU Kasumi
「連句の赤い糸」

12月10日（土） - 12月18日（日）

11:00 - 19:00 ※12月18日通常展示は12:30まで / 無料

俳句や川柳のもとになった連句は、5・7・5と7・7を複数人で連ねていく共同詩である。本企画では、連句のリズム、緩急、雅俗、重軽といった文学的表現を視覚的表現に翻訳し、句と句のあいだにある糸のような繋がりそのものを鑑賞させることを試みる。期間中にはイベントを実施し、連句を多角的に解釈する場をつくる。

関連イベント

12/11（日）13:00 - 17:00 連句ライブ

12/18（日）13:00 - 17:00 連句盆踊り 予約制



9. 『連句×盆踊り』 2020

プロフィール 2011年より連句団体「草門会」に参加。2012年よりワークショップ「連句ゆるり」を開始。カードゲームや紙芝居などを取り入れ、連句未経験者が加わりやすい場づくりを行っている。他にも連句にまつわるワークショップやトークイベントなどを多数開催している。

TOKAS 推奨プログラム

アド モーニングス Ad Mornings
「Place of Living Information」

12月22日（木）－1月7日（土）

＊12月29日（木）－1月3日（火）は休館

11:00－19:00（13:00－19:00 毎日アクティビティ実施）／無料

新聞の発行を通じて活動するコレクティブによる展示。17～18世紀に市民個人の民主的な精神や環境を育てた場所として発展したコーヒーハウスをはじめ、新聞の歴史に関わる場所を参照しながら、対話や情報の流通、配布を通じた「生きた情報の場所」をつくりだす。新聞の展示、展示の更新、新聞を読むパフォーマンスの3つの要素から構成する。

アーティスト Jang-Chi、大和由佳、土本亜祐美、シェレンバウム・ゾエ、ユニ・ホン・シャープ、ジョイス・ラム、山科晃一、宇佐美奈緒

プロフィール

2020年結成。東京都とパリを拠点に活動。新聞をつくり発行する集団。言葉と形態のあいだの指示、命名、記述、配置に着目し、複数の記者が異なる場所で「行為のスペック」を提示し「痕跡のトレース」を生成する。



10. 《Ad Mornings_Nuclear 20201211_20210316》2021
Photo：大塚敬太

////////////////////

TOKAS 普及プログラム

志村信裕 SHIMURA Nobuhiro
「モノと語り」

1日目：1月21日（土）13:00－14:30

2日目：1月22日（日）

①11:00－13:00 ②15:00－17:00

※①または②のいずれかに参加

無料／予約制

定員：12名（応募多数の場合は抽選）



11. 《Nostalgia, Amnesia》2019

志村の映像作品の断片や静物画の歴史から、「モノと人の関係」という目には見えないものの表象について探究する2日間のワークショップ。参加者は所有物を実用／非実用の2種類に分け、「語り」と映像メディアを介してその「モノ」と自身との関係性、記憶や過去の時間を表出させるを試みる。

プロフィール

1982年生まれ。身近な日用品や風景を題材とした映像インスタレーション作品や、ドキュメンタリーの手法を取り入れながら可視化され難い社会問題や歴史に焦点をあてた映像作品を制作する。近年は美術教育への関心から、美術史や表象をテーマにさまざまなワークショップを実施している。

「OPEN SITE 7」
広報用画像申込書

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

Fax 番号: **03-5245-1154**

☐1 ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 ☐6 ☐7 ☐8 ☐9 ☐10 ☐11

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 ☐TV ☐ラジオ ☐新聞 ☐フリーペーパー ☐ネット媒体 ☐その他()

掲載／放送予定日 月 日 発売／放送(月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1～2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を 1 部もしくはコピーの場合は 3 部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

＜お問い合わせ＞ ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当：市川、武智

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp